

第3回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会 議事録

開催日時 令和5年3月22日 午前10時から正午まで

会 場 我孫子市水道局大会議室

出席者 委員10名（2名欠席）、事務局11名（傍聴人5人（上限））

【本議事録の表記に関して】

議事文中に出てくる学校名等について、次のとおり略記する。

布佐小学校：布小

布佐南小学校：南小

布佐中学校：布中

布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の総称：三校

1 開会

（省略）

2 委員長あいさつ

第3回目の会議となる。よろしくお願ひしたい。2月24日の三校視察（事務局注記：2月24日に現状の把握を目的に、三校の視察を行いました。）は参加できなかったが、日を改めて自身で視察に出向いた。各校長とも話ができ、良い勉強となった。会議の中でも報告していきたい。

本日は、今年度最後の会議となるが、検討内容もいくつか盛り込まれているのでご協力を願いたい。

3 布佐中学校区三校の視察の意見・感想について

（委員長）先月行った布佐中学校区の視察について、意見や感想があれば。

（委員）小学生がパソコンを使っているのに驚いた。大人でも必死に覚えるのに、低学年から活用していることは幸せだと感じる。

南小見学時に、担任でない方が指導し、担任はサポートに入っていたがどのような形式なのか。

(委員) どの授業か定かではないが、例えば、算数であれば少人数指導の教員が入ったり、市費でスクールサポート教員が入ったりしており、複数人での指導ができています。

(委員) 自身のイメージだとークラスに一人担任だったり、教科担任が担当したりするのではなく、二人で授業をしているということか。

(委員) 担任はずっと関わっているが、教科によってスクールサポート教員が入る。南小では算数や家庭科など、学習指導でサポートが必要なものや一人で見切れないものに入っている。

(委員) 教室の空きが多いと感じる。使用できない教室が増えると触れ合いも減ってくると考える。子どもたちの学がよろこび、楽しさが減っているのでは。また、児童生徒数が少ないことで、先生方も少人数に合わせてやり繰りや工夫が必要になるため、余計な負担をかけているのではないか。

(委員) 普段は南小しか知らず、布小布中を初めて見学したが、校舎の古さに驚いた。トイレの設備も古く、改善してほしいと思った。

布小校舎から布中校庭まで高低差があることにも驚いた。雨水が滝のように流れていくと聞いたがその通りと思う。

(委員) 特別支援学級で児童と先生が一对一で授業をしていることに衝撃を受けた。良し悪しも含め、今後の学校を考える視点の一つになると感じる。

(委員) 特別支援学級の増加も今後の課題であり、支援級の子どもたちにも合う学校づくりも議論すべきと思う。

南小には関わることがあり話を聞いているが、三校視察で他校の話聞くことができてよかった。布小の新生児が12名(事務局注：令和5年度入学式現在では16名でした。)と聞き、切磋琢磨するためにも人数を増やすことも必要と考える。小学校の一体化も必要だと感じた。

また、中学校時点での人数減が問題かと思う。小中一体型とするのであれば、中学校段階の人数が増えるよう考える必要がある。

(委員) 視察欠席のため、地域ボランティアの話題を。2月に布小1年生の昔遊びの授業を持ち、駒遊びや鬼ごっこなど指導し、とても楽しんでもらった。

三校一体型の話とは別だが、地域としてもっと参加できれば楽しいと思う。

(委員長) 地域の人々がどんどん参画できるようになれば良いと思う。

(委員) 中学校としては、学年1クラスになるのを危惧している。2クラスは維持したい。布佐地区は地域の協力も多く、生徒も一生懸命やる子どもである。この子どもたちが本当に学べる環境を作るために考えていきたい。

(委員) 令和5年度の南小は、卒業生と新入生の差引きで10名程少なくなった状態から新年度がスタートする。今後はこの状態から横ばい、やや減少で推移するイメージである。自身は単学級校での勤務は初めてだが、南小は通学路が整備されていて安全であり、子どもたちも純粋で良い子どもたちである。先日、布中と合同のあいさつ運動を実施したが、今後も活動を広げて三校で合同の行事などができると良いと考えている。

(副委員長) 9年間の小中一貫教育を考えたとき、改めて現在の校舎がそれぞれ老朽化している。三校視察したことで、一体化に対してのイメージもかたまってきた。

(委員長) 感想にもあった先生の人数について、事務局から参考資料がある。説明を。

(学校教育課長) (資料説明概要) 布小南小の規模(11学級以下)では担任外教員が1名と定められているため、教務主任又は音楽担当教員が担任を兼務している。二校が合算して12学級を超えれば2名配置されるようになり、また、中学校は教科担任の必要から担任外教員が7名配置されるため、三校一体型で合算すると9名の担任外教員となる。義務教育学校を想定するなら小中両方の免許を持つ教員を配置するため、中学校の担任外教員も小学校の指導に回せる利点がある。

(委員長) 説明の中にもあったが、義務教育学校を想定した場合、小学校の教員増がメリットになる。現在の布小南小で考えると、学校の規模が小さくても業務内容は同じなので、少ない教職員でやりくりするのは大変である。

他に、校舎の老朽化について思うところはあるか。

(委員) 教室については問題なく使えている。

(委員) 使い勝手が悪いことはないが、築年数が古いため細かい部分で気になることはある。

(委員) 子どもが女子トイレの洋式が少ないのが不満と言っていた。新木小は自動水栓の手洗い場、洋式4・和式1なので、南小と比べると差がある。

(総務課主幹) 南小のトイレについては、市内で一番洋式化が低い状態となっており、今後は徐々に洋式の便器に入れ替えていきたいと考えている。

(委員長) 予算もある中で大変かと思うが、時代に合うようお願いしたい。

(委員) 話題が変わるが、遠足でバス利用の際に南小は敷地に入れるが、布小・布中はどこに停めているのか。

(委員) 和田前公園の通りに集合している。通勤時間に重なるので、苦情が入ることもある。

4. 今後の議論項目の設定について

(委員長) 今後の議論項目の設定について項目の追加や質問があれば伺いたい。

(委員) 布小入口の拡幅の進捗は何年後か。

(総務課主幹) 道路課の所管であるため詳細不明だが、事業は進んでおり遠い話ではないと聞いている。具体的なスケジュールは確認次第報告する。

(委員長) 時期が明確に分かったら教えてほしい。

今のような質疑や確認事項でも結構であり、項目立てに関することでも意見があればお願いしたい。

(委員) その他の項目で児童生徒数の推移の項目があるが、児童生徒数の推移の部分で入学予定者数も分かればと思う。具体的な人数があれば、大体この学年は何人体制で教員が何人付くか分かる。

また、もし布小のところに校舎を建設する場合、高低差もあることから嵩上げした場合の予算なども積算していただきたい。防災面も考慮すると、高低差のある敷地よりは、フラットな敷地で校舎を建て替えた方がいいのではないかと思う。

(委員) 三校は利根川・手賀沼に挟まれている地域であり、防災を考えたとき利根川が氾濫した場合どうなるか、そういうものが一番のメインになる。子どもたちや地域住民も含めた避難場所と考えると布小の高台が良いと考える。

(副委員長) 布小の位置に新校舎を建てる際、嵩上げが必要なのか。

(教育長) もし一体型校舎を建築する場合は水害の影響等を考慮すると布小の位置になり、嵩上げ等も必要ないと考えている。グラウンド等については別途検討していきたい。

(委員) 布小布中の位置は高低差が激しいので、南小のフラットな敷地も検討してほしいという意味も込めて意見したい。

(委員) それぞれの学校の立地的なメリットも比較しながら検討するべきだと思う。

(委員長) 南小は洪水時の避難所になっていないという話も聞いたが、本件はまだ検討段階のため色々な意見を出してほしい。

(学校教育課課長補佐) (ここで意見があった布佐中学校区の入学予定者数の推移について説明)

(委員) 予定人数に比べて実際の入学者数が減っていることにショックを受けている。今後も減少する可能性があり、予定数がそのまま入学者数にならないのだろうと思う。

(委員) 布小はこの春に29名卒業し、来年は16名と聞いているので、全体で13名減少している。

(委員長) 最初の児童生徒の視点の中の項目について意見があれば伺いたい。

(委員) 今一度、この検討委員会の目的を確認したい。今の学校の在り方について検討するのか、小中一貫校になった場合について検討するのか。検討委員会の結論をどこに据えるのか。

また、設定された項目立てに対し、自身の疑問が当てはまらない場合はどの項目に入れればよいのか。例えば、三校一体型になった場合、運動会などはどうするのかという疑問があるが、これはどの項目になるのか。

(教育長) 検討委員会は、3つのパターン(事務局注：①現状のまま②布小布中のみ一体化③三校一体化。詳細は第一回議事録を参照)について検討するものということは変わっていない。3つのパターンについてのメリット・デメリットをこの検討委員会でしっかりと議論し、委員の皆さんからの意見をいただいた上で、最終決定は市が行う。項目の疑問については、例では児童生徒の中の学校行事に当てはまると考える。

(委員長) 3つの施設パターンを検討する中で、各項目に沿って考えながら、この項目であればこちらの方が良いのではという提言を教育委員会へ出すという形になる。

(委員) 小学校2つが一緒になるのは良いと考えているが、中学校も同じように考えてよいのか疑問である。

(委員) 現状の中学校の課題として、布中には部活の種類が少なく子どもの意欲を妨げていると思う。

単学級での人間関係の問題や、南小から布中に進学する際の環境変化の問題などを考えると、一体型にする方向性になるのではないか。

(委員) 一体型にするメリットが目に見える形で検討していきたい。

(副委員長) 現状の小学校の運動会は人数が少なく半日で終わってしまう。小中一体型になって一緒にできれば、盛り上がりの面でもメリットがあるのでは。

(委員) 小学校が一緒になれば人数が増えるのは良いと思う。中学校の人数は変わらないので、今後は中学校の学区を広げることも検討にいれるべきでは。例えば中学校数の再編など。

(教育長) 部活動の数の話では、部活動改革が新聞報道等でも話題になっているが、我孫子市でも野球のクラブチーム新設や、部活動指導員の検討などを進めているところである。生徒数が減ると教員が減り、顧問が減り、部活動の数が減ることになる。そこは課題であり、受け皿を作っていきたい。

中学生の生徒数の減少に関しては、どこの地区でも同じであり、推移を見守りながら進めていきたい。中学校の再編については今のところは一切白紙である。

(委員長) この検討委員会は布佐中学校区と限定しており、布佐中学校区の3つのパターンについて、各項目それぞれ検討していくというようなスタンスとしたい。

項目の振り分けについては、疑問があれば事務局に確認しながら進めていければ。

(委員) 市川市立塩浜学園の視察(11月実施)では、義務教育9年間という考え方であり、小学1年～4年、小学5年～中学1年、中学2～3年の区切りだった。こういう新しいモデルケースを我孫子市でもぜひ採用していただきたい。

(委員長) 学年の区切りについては3つのパターンの②③に関わってくるので重要な部分である。これは「その他」に入るのではないか。

次の項目、教職員についてはどうか。教員に関するもので、これに加えるものや疑問点があれば意見を伺いたい。

(副委員長) 小中一体型とした場合、中学校からみて、小学校でどのように学んできたか、どのような教え方をしたかを確認しやすいことがメリットだと思う。また、このように考えたとき、このメリットは教職員の交流の項目で良いか。複合的な観点も設定してよいのではないか。

(学校教育課長) 小中相互の授業見学などなら教職員交流になるが、小学校から中学校への学びの継続性であれば学習指導の項目に入る。子どもたちの悩みに相談する部分であれば児童生徒の理解になり、例一つとっても複数の項目にまたがって考えられる。

(副委員長) 塩浜学園視察の際、職員室が小学校の先生と中学校の先生が一緒になっていた。手の届く距離でお互い相談できることが一体型のメリットだと思う。

(委員) 布小と南小に通信簿はあるか。

(各校回答) 両校ともにある。

(委員) 小中一貫校になった場合、学校が統合するため通信簿の評価の仕方が疑問だがどの項目になるのか。

(事務局回答) 学習指導になる。

(委員長) 今のように、各委員の疑問点などを事務局に発信し、検討内容に加えるような形にしていければと思う。

(委員) 項目には生徒指導とあるが、小学生も含めるため、児童生徒指導という表記になるのではないか。

(委員長) 小学生は児童であるが、取扱いでは生徒指導という表記に統一されるため了承していただきたい。

次に、保護者の項目はどうか。

(委員) その他になると思うが、現在、南小では保護者のみの組織(学連協)があり、布小はPTAとして活動している。一緒になった場合の、保護者の関わり方について検討に加えたい。

(委員長) 保護者組織をどうするかについても考えていかなければならないため、その他項目に加えるでよいか。

(委員) PTAについて、その他ではなく、個別に項目として立ててほしい。今年、布小は150周年として、保護者、先生、地域で協力して事業を実施し、よい経験ができた。PTAの役員ときくと敬遠されるものであるが、先生方との密な関わりができたことや、色々なコミュニケーションを取れたことが、PTA本来の目的とも合致してよかったと思っている。PTAの役割についてもスリム化しながら本来の目的に立ち返って再編することなど検討したい。

(委員長) 事務局には、項目の中にPTAなど保護者組織の項目追加をお願いする。また、保護者項目と地域項目にそれぞれ「地域コミュニティ」があるが、これは何か違いがあるか。

(指導課回答) 基本的には地域コミュニティということで同じに考えてよいが、保護者にも地域の一員としての意識を持っていただくということで両方に入れてある。

(委員長) 次に、地域の視点から見た項目立てについての意見を伺いたい。

(議事進行) 特に追加する項目はなし。

(委員長) 次に、その他の視点から見た項目立てについての意見を伺いたい。

(議事進行) 特に追加する項目はなし。

(委員長) では、各々考えていく中で新たに検討事項に入れてほしいものがあれば事務局に伝えていくことでよろしいか。

(議事進行) 一同了承。

(委員長) 事務局の方もそれに対応していただきたい。

他に何か質問等はよろしいか。

(委員) ほかに聞いた話だが、部活動を理由とした学区外の中学校へ進学することは可能か。

(学校教育課長) 現状では部活動を理由にした学区外通学は許可していない。ただし、今後は地域におけるやクラブチームのあり方や、部活動のあり方等、子どもの選択肢を考えると検討する余地はある。

(委員) 小学校の運動会で行われている就学予定者の招待レースについて、南小と新木小の2校から招待が届いたという話がある。本来なら学区どおりの1校のみから届くものだと思うので、学区の取り扱いについて確認してほしい。

(委員長) 以上をもって本日の会議は終了とする。活発な意見等をいただき感謝する。

(教育長) 令和4年度の検討委員会の活動に感謝申し上げる。今回提示した検討する際の視点・項目の整理について、特に児童生徒や教職員に関しては、事務局でも準備を進めていく。その中でまた議論したいと考えているのでよろしくお願いいたします。この検討委員会は、子どもたちにとって最適なものは何かということを最優先とし、続けて、教職員、保護者、地域のことをしっかり見ていかなければと考えている。委員の皆さまには、来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

5 事務連絡

○会議の中で質問のあった布小入口の拡幅工事について

・道路課に確認したところ、令和6年度に拡幅工事を行う予定で事業を進めている。

○令和5年度のスケジュールについて など

(以上)

次回開催は5月頃を予定しています。